

●帝國海事協會の鋼船規則認定

帝國海事協會が其聯盟英國ビーシー船級協會鋼船規程に依りて豫て同會鋼船規則を立案起草して遞信省に認可申請中なりしが愈々去る十三日附公認許可現行造船規程同様の效力認定、同會設計新船に對して遞信省は左の取扱をなす事に決定せり。

- 一、帝國海事協會鋼船規則に適合する船舶にして同規則により其構造を定むるに用ひたる吃水が上甲板を乾舷甲板とする形狀吃水より小ならず且つ船舶滿載吃水線規程による標準強力に適合するものは重構船に編入すること。
- 二、前號によらざるものは一般に輕構船に編入すること。但全通船樓又は遮浪甲板を有する汽船の場合には之を全通船樓船又は遮浪甲板船に編入すること。
- 三、重構船に非ざる船舶は滿載吃水線法規の適用に當りて其強力吃水を船舶滿載吃水線規程によりて算出すべきことと造船規程による輕構船等と全く同様なり。

●封鎖區域の樺太炭

永井樺太廳長官談

樺太廳永井長官は井本拓殖部長以下十數名の隨行と共に此程樺太内淵川流域なる内淵炭田炭層の視察を行つたが次の如く語つた、『落合村から八里半乗馬を以て美保に到着し一泊の後内淵川本流の上流なる速川口の炭層を見る爲再び乗馬で四

里半を突破した、速川口方面一帶は到る處に炭層の露頭があり同地の炭田である事は素人でも容易に辨へる事が出来る、其處の炭層は大きい所になると五十尺以上もあり幅四里長さ十五里、水深五十尺位で三井川上の礦脈と連續して居るのである、而して其總量は約一億三千萬噸と稱せられて居る、目下内淵炭田は封鎖區域になつて居るのであるが其炭質は北海道の夕張坑の石炭に劣ると雖も大同小異で先づ本邦第一流の石炭である上殊に燃料に適する由である、序を以て附近に於ける森林の状態をも視察して來たが幸にして同地には未だ松毛蟲の被害も及んで居らず、斧鉞の入らざる天然林實に鬱蒼たるものがある、加ふるに内淵本流の潤す處が沃野千里と連らなつて農作物の如きは本年の不作にも怯げず非常なる豊穰さを示して居る、未開の内淵は實に樺太に於ける寶庫である』云々。

●マグネチック・ログ、ウオッシャーの發明

米國ミネソダの鐵鑛床は同國第一の產鐵鑛であるが、専門家は其鐵鑛產出期を今後二十年であると計算してゐる、これは同國にとつては一大脅威である、そこで何等かの方法で含鐵量の少い鑛石を利用し、それから經濟的な方法で多くの鐵を得たいとは何人も望むところであつた、同國ウイスコンシン大學のエドワード・デーヴィス教授は、此の望みに副ふやうに頗る巧妙な機械を案出した、それはマグネチック・ログ・ウオッシャーである。

此の機械は鑛石を碎く破碎機、それを磁鐵鑛(又は赤鐵鑛)と他の物とに分つ分離機、更にそれを粉末狀にする碎粉機の

三つと、斯くして粉末状となつた物を水で洗ふ洗滌機とから成つてゐる、すべて自動的に行はれるのであるが、始めの三部分は別に珍らしい物では無い、この機の特徴は最後の洗滌部にあるのである、圖(省略)に示したのは此洗滌部である。

この部分は長い水門状をなした箱を主體としてゐる、少しく傾斜して内部中央に軸が通つてゐる、此の軸には螺旋状にスクレーパーが付いてゐる、粉末状磁石は此の箱の内に向つて傾斜せる樋(イ)から供給される、すると上方の管(ロ)から入る水の爲に洗はれて、其うちの磁鐵礦ならざる部分は溢れ出る水と共に出口(ワ)から流れ出す、他方磁鐵礦は水箱の下部にある三つの電磁器(ニ)により箱の底へ吸ひつけられて残る、斯く残つたものはスクレーパーにて掻き集められて、他の出口(ホ)から出るのである。

斯くて出口から出た物は六割四分の鐵を含み、製鐵原料として頗る適當のものであるさうだ、以上の方法は磁鐵礦に對するものであるが、赤鐵礦に對しても、それに熱を加へて酸素の一部を追ひ出すと磁性を帯びるから、それ以後は同じ方法で製鐵原料とする事が出来るさうである、以上のデーヴィス法は既にミネソタ大學で數年試験したが愈々實行可能となり、同地のバビットに於て既に事業を起す事になつたさうである。

●米國製鋼合併中止

ミドヴェール、レバブリック、インランドの三製鋼會社の合併計畫があつたが聯合通商委員會は這是チエアマン・ハイ・トラスト法違反になるとの主張にて之に反對した爲め合併計畫は見合せとなつたとの發表があつたのでウォール街では大評判にしてゐる、前記三會社は合併

が見合せられたがラカワナ、ベスレーム兩聯合會社の合併は纏まり此兩會社は自社の輸出品を自ら取扱はん事を望んでゐたのである、コンソリデーターツ製鋼會社解散の主因も茲に存して居たのである、合併後の新會社はベスレーム・スチール・エクスポート・コーポレーションと云ふ名稱になる其役員の名は近く發表される、コンソリデーターツ社解散の今一つの理由と云ふのは何分世界の現状からして同社は鋼の輸出に利益を納める事が出来ないものであつて之れも主として歐羅巴の競争と歐羅巴諸國の通貨下落の影響に依るものとせられて居る。

●米國製鐵賃銀引上

ユー・エス、スチール・コーポレーションが所屬従業員廿二萬人中十五萬六千人に對し賃金二割引上を發表した、之が爲め自餘の會社も之れに倣ひ引續き同様の行動を執つて居るが總ての製鐵會社に及ぼされると見られて居る今回の賃金値上げの理由は鐵の値段が昨年一月一割六分騰貴し今後とも騰貴の趨勢を辿る可くこれにより利益増進した爲めであると云つて居るが、近來の勞働爭議に鑑みて勞働者が會社の利益増進を見て必ず賃金引上げの要求を提出するを見越し先手を打つたものであらう、而して今後は何等躊躇する事無く鐵の値段を引上げる事が出来る其用意の爲でもある。

●英國對日鐵類輸出

英國商務院の發表に依れば八月中に英國が日本へ積出した鐵類は八千四百噸にして其内譯は銑鐵及鋼棒各千二百噸鐵及鋼板五千四百噸亞鉛引薄鐵板二百噸鐵力四百噸等であると。

●エヴァア炭坑及鋼鐵工場閉鎖

倫敦發電、マンシ

ヤ一のエツア炭坑夫及び鋼鐵工場職工は賃金爭議の結果二十四時間の罷業を行つたので、同炭坑及び工場は無期限に閉鎖した坑夫、職工の數は一萬人である。

●印度鋼鐵工場の罷業

印度ジャムシエドプールのタタ鋼鐵工場の罷業職工は二萬人に上つた、右タタ鋼鐵工場職工は賃銀に不服の爲め去月二十日無警告で罷業を開始したのである。

●印度製鐵罷業の影響

印度のタタ製鋼會社にては從業職工約二萬人が賃金値上の要求をなし其結果一齊に同盟罷業をなしたりとの事であるが、右に付き八幡製鐵所吉田營業課長は語る「印度にはタタ及びベンゴールに二大製鋼會社があり、ベンゴールは一千八百八十九年の創立で始めは一千噸位の銑鐵の製産能力であつたが、現在では二十萬噸の銑鐵と鑄物五六萬噸の能力を有し、熔鑄爐が五基もあつて歐洲人の技師百人と印度人一萬五千五百人を使役して工場の總面積は一萬五千呎である。タタは一千九百七年の創立で資本金一億圓(邦貨)四千萬留比の大會社で、銑鐵の製産能力七十萬噸で先年來更に五十八萬噸の製鋼計畫あり、目下既に製鋼工場は擴張工事中であるが果して完成して居るかどうかは確ではない、職工三萬五千八百三十七人並に若干の歐洲人技師を使ひて居る。此兩會社は東洋製鐵界の大權威で頻りに我國にも銑鐵の輸入があり鈴木川崎は一ヶ年六七萬噸の銑鐵を取引して居るが最近は一ヶ月の數量二三萬噸に過ぎない、元來同地は賃金の低廉なる所から輸入銑鐵價格は神戸沖着四十四五圓見當て我製鐵界は大に脅かさるゝ譯である、現在では六七十萬噸の製産であるが其規模の大なる事は實に大陸的と云ふ

べして將來印度鐵の策應は決して等閑に附すべきでない。今回の同盟罷工は果して何程の準備で決行されたものであるか判らないから我製鐵界に直に影響するや否やは逆睹し難いが斯る大製産會社の事で海外輸出も相當にあるとは云へストツクも決して少くはあるまいから或は大した事はないかも知れないが、其繼續期間が永引けば必ず好影響を齎す事は當然で目下當所としては形勢を見て居る次第である。」云々

●支那の鐵鋼需要

支那は近來鐵鋼の需要漸次増加し其工業狀態に於ても數年前と比較して頗る見るべきものあり右に就き八幡製鐵所某氏最近の調査によれば、支那は明治四十年以來大正九年まで二百九十萬噸の鋼材の輸入をなして居る、這は大戰爭前後を通じて調査したものであるが、其一ヶ年平均輸入額は二十三萬三千噸である而して大正九年の輸入額は三十八萬九千噸に達したが大正十年は二十九萬三千噸に減少して居る、右期間中鋼材輸入品の重なるもの十種の内最も多量なるは鋼屑鐵で全輸入の一割四分を占め次で棒型物で一割三分、軌條一割一分、鋳力九分三厘で次が薄板、厚板、釘、リベット、鐵斷機、針金、管類、亞鉛引薄板等の順序である、之を價額の方面から見ると第一位が鋳力で這は全輸入額の二割六分三厘を占め棒型物は第二位で一割一分八厘、釘、リベットは第二位で一割一分九厘、薄板、厚板、軌條は第四位で一割一分五厘、次が針金管類及鐵斷機である。

大正十年の輸入額に於て右十種の鋼材中最も噸數の多いのは軌條で全額の二割一分八厘を占め、第二位は型物の一割四分二厘、第三位は鐵屑板の九分六厘、第四位が釘の八分三厘で以下薄板、厚板、鐵斷機、釘、リベット、管類、針金、亞

鉛引薄板の順序である、其價格は軌條が第一位で全輸入額の一割九分三厘を占め次が鋳力の一割五分、棒型物の一割一分三厘、管類の一割六厘以下薄板、厚板、釘、リベット、亜鉛引薄板、銅屑、織斷機、針金の順序で此大正十年の順序と明治四十二年から大正九年迄の順序とを比較して見るに銅屑の第一位から第七位に落て居るのは頗る注目し値するものがあるが支那の事情に暗い人は誰も此落方を能く理解する事が出来ないであらうが、支那は數年間屑鐵の輸入によつて農具類を製造したからである、最近に於ては銅屑の代りに各種の銅棒を使用する傾向が顯著となつた、而して此傾向は上海及中央市場に於て最も著しいものがある、次に最も其地位を轉換したのは管類が第十位から第五位に飛上つた事である、此變化は支那の工業が長足の進歩を爲して居る事を意味するものと見て差支なく同時に支那は近時大都市に於て衛生狀態發達して來たのも其原因である、棒類は大正十年には第一位に飛上つたが這是數年間軌條の取替修理を怠つて居たからで更に鐵道の敷設も一因である、現在に於て軌條は支那市場に於て重要な品目として取扱はれて居る。

●八幡製鐵所購入炭 八幡製鐵所に於ける大正十一年度購入石炭に就ては去る四月以來各納入者と折衝中なりしが頃日愈々確定購入契約を爲したり、今其内譯を聞くに骸炭用石炭三十五萬噸内二十二萬噸は開平、本溪湖、四川炭にして残り十三萬噸は三井、三菱、古河等より納入す、而して炭價は最高噸當り十二圓、最低七圓八十五錢なり、其外汽罐用炭は塊十一萬噸、切込、粉二十萬噸にて塊炭は噸當り最高十三圓二十錢より最低九圓六十錢、切込粉炭は最高十圓二十錢よ

り最低七圓七十錢なり、以上購入炭の總計六十五萬噸に達し此外製鐵所の各炭山より約一百萬噸を採掘する豫定なるを以て十一年度の消費額は合計一百六十六萬噸となる譯なり、而して今之れを大正十年度の豫算額百六十三萬噸に對比する時は僅に六萬噸の増加を見るのみなり。

●米國鐵礦賣込交渉 米國加州から遙々八幡製鐵所へ此程鐵石の賣込み交渉が來たので同所では事の意外に驚いた取敢ずサンプルの送附方と距離の關係で購買契約の不能を回答した由、白仁長官は此の珍らしき現象に就て語る。『鐵石賣込交渉の來たのは加州の三鐵山からであつて、價格は門司渡し一噸十圓といふことであつた、米國から斯かることを言うて來るとは全く意外のことゝて冷かしてはないかと思つたが種々研究して見ると成程と領かるゝ點がある、申込んで來た鐵山は何れも今度新らしく事業を開始した山らしいが、先方では供給先に就て研究したらしい、即ち加州から大陸を横斷して市俄古やピッツバーク等に送るとすれば莫大なる運賃を支拂はなければならぬ、それに引換へ日本へ送れば運賃も比較的安く日子も短いのは東洋方面に供給地を物色した結果であらう、支那から購入して居る鐵石も門司着では一噸八九圓に當り品質如何に依つては大差ないことになるから差當り見本を送れと言つてやつて置いた、此の狀態では將來は南洋方面からも鐵石の賣込交渉が來るものと豫期して居る』と。